

東日本大震災5年シンポジウム ～建設技術者が果たした役割、そしてこれから～

東北地方整備局 企画部

去る3月10日（木）、仙台市内において「東日本大震災5年シンポジウム ～建設技術者が果たした役割、そしてこれから～」を開催しました。

このシンポジウムは、東日本大震災から現在まで、建設業及びその関連団体の5年間の活動の軌跡を振り返るとともに、そこから得た課題や東北地域が歩むべき将来像などを考えることを目的に、（一社）東北地域づくり協会をはじめとして12の建設業関連団体との共催で開催したものです。

開催にあたり、主催者代表として東北地方整備局 川瀧局長より、「震災からの5年間は建設関係者が主役となり大変な役割を果たしていただいた。東日本大震災を風化させず、得られた教訓を共有財産として将来につなげていくことが大事。東北の更なる安全・安心の構築に向けて、建設関係者が一体となって取り組みを推進し、シンポジウムの成果が全国に発信できることを期待している。」と挨拶がありました。

続いて、造園家の涌井史郎氏（東京都市大学教授）による「東北復興・レジリエンス性を高めたインフラ整備とその方向」と題して基調講演が行われました。

涌井氏は、「管理をするための発想のインフラ整備ではなく、地域のマネジメントに対応可能なインフラを考えていくべき。」「ICT（情報通信技術）などの先端技術を活用し、労働生産人口の縮退と距離的不利性の克服する新たな夢を描くべき。」「建設産業は請負に留まらず、地域から頼られるエリアマネジメントのリーダーとなるべき。」「建設産業は地域のホームドクターである

と同時に、いざというときの地域の用心棒あり、このリーダーのもとに地域のコミュニティを結集していくことが大事。」などの提言をされました。



涌井氏による基調講演

基調講演に引き続き、震災直後から復旧復興に向けて様々な取り組みを行ってきた4人の建設技術者をパネリストに迎え、（公社）日本都市計画学会東北支部の姥浦 道生氏（東北大学大学院准教授）をコーディネーターとして、「初動対応～復旧復興への取り組み」、「取り組みを通して得られた知見や教訓、伝承すべき事柄」、「東北の将来に向けてどのように活かしていくか」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッションの様子

【パネリスト】

- ・東北建設業協会連合会
上野 裕矢氏(川屋建設(株))
- ・(一社)日本埋立浚渫協会 東北支部
須川 泰浩氏(五洋建設(株)東北支店)
- ・(一社)日本建設業連合会 東北支部
高橋 林氏(清水建設(株)東北支店)
- ・(一社)建設コンサルタンツ協会 東北支部
向田 昇氏(大日本コンサルタント(株)
東北支社)

【コメンテーター】

- 造園家 涌井史郎氏(東京都市大学教授)



コーディネーターの姥浦氏

各テーマにおけるパネリストの発言要旨は次のとおりです。

■テーマ1

初動対応～復旧復興への取り組み

【上野氏】

道路啓開をスムーズに実施できたのは、災害協定とともに、突発的緊急事態への柔軟な対応力を蓄積してきたから。地場の建設業として地域への使命感、責任感で作業に当たった。



上野氏(東北建設業協会連合会)

【須川氏】

航路啓開を円滑に進められたのは、災害協定を締結していたことが大きい。結果として、9日間で被災した各港湾の1岸壁を使用可能とした。



須川氏(日本埋立浚渫協会東北支部)

【高橋氏】

物資を自治体に届ける仕事を担当。日建連(日本建設業連合会)会員が日頃からまとまっていたからこそ、緊急時に一体で対応できた。また、必要な物資の情報を得る際、リエゾン(災害対策現地情報連絡員)の存在が大きかった。

【向田氏】

災害協定に基づき、被災状況の調査や緊急橋梁点検を実施したが、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震の経験を活かすことができた。

■テーマ2

取り組みを通して得られた知見や教訓、伝承すべき事柄

【上野氏】

有事に際しての即時機動力が不可欠。地場建設業の役割が重要だが、機動力を保持するためには、自社で人員や建設機械を確保していかなければならず、計画的・安定的な公共事業の確保が必要。また、非常時の入札契約制度を確立しておくべき。

【須川氏】

広域での連携強化が必要。指揮命令系統を明確化するとともに、どの岸壁に向かって航路啓開すべきか事前に決めておくことが重要。

【高橋氏】

三陸自動車道が住民の避難や緊急車両の通行を可能としたため、道路網整備の必要性を痛感した。自衛隊や警察ほどには建設業の活躍が伝わっていないので、国民に対しての広報活動を積極的に展開することも必要。

【向田氏】

今回の震災では、橋脚破壊による落橋はなかつ

た。阪神淡路大震災後の耐震補強が一定の成果を果たした。

(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部では災害時に迅速に対応できるよう委員会を新設するとともに、防災の日に合わせて災害時の対応演習も実施。

■テーマ3

東北の将来に向けてどのように活かしていくか

【上野氏】

三陸沿岸の防潮堤をはじめインフラ復旧が進められているが、そのような構造物の整備だけで地域が安心してしまう可能性が高い。子供たちを含めた防災・減災教育が必要。

【須川氏】

国・自治体、民間企業が確実に連携できる協定を締結し、それに沿ってシステムを定期的に点検していくことが重要。

【高橋氏】

防災集団移転事業の造成に携わっているが、将来この地域がどうなっているか心配な部分もある。地域にとって何が必要かを考えながら計画することが必要。建設業の将来を見据え、担い手を確保していかなければならない。



高橋氏(日本建設業連合会東北支部)

【向田氏】

被災した構造物の整備が急ピッチで進んでいるが、これらが完成すれば維持管理する施設が一気に増える。将来に負の遺産を引き継がないために維持管理が容易な構造とすることが重要。



向田氏
(建設コンサルタンツ協会東北支部)

本シンポジウムには、建設関係者をはじめとした約760名という多くの方々にご来場いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。

また、東日本大震災から現在までの共催団体の様々な取り組みを紹介したパネル展も同時開催しました。

震災から5年間、初動から復旧復興に向けた様々な取り組みについて、学会・業界など各分野で携わった建設技術者から、現場の実態、ご苦労、知見・教訓の紹介をとおして、建設技術者が果たした役割を確認することができました。得られた知見・教訓を、地域づくりにあたり共有の財産として、如何に将来に繋げていけるのか議論され、今後も東北の安全・安心の構築に建設関係者が一体となった取り組みが、更に推進されていくことを期待します。

最後に、本シンポジウムの開催にあたり、たくさんの方々にご協力を頂き、この場を借りて御礼申し上げます。

また、引き続き、防災エキスパートの皆様にはご支援ご協力をお願いいたします。

防災エキスパート活動報告

平常時 (H28.2月～H28.3月)

県別	活動内容	活動場所	活動年月日	出勤人数	備考
青森	防災セミナー	全国防災協会	平成28年2月2日	1	
	防災エキスパート意見交換会	青森河川国道事務所	平成28年2月5日	16	
	総合水防演習事前打ち合わせ	青森支所	平成28年3月24日	2	
計				19	
岩手	防災セミナー	全国防災協会	平成28年2月2日	2	
	地域防災フォーラム	岩手大学	平成28年2月5日	10	
計				12	
宮城	防災エキスパート意見交換会	青森河川国道事務所	平成28年2月5日	1	
		秋田河川国道事務所	平成28年2月23日	1	
		酒田河川国道事務所	平成28年2月24日	1	
	防災セミナー	全国防災協会	平成28年2月2日	2	
	地域防災フォーラム	岩手大学	平成28年3月8日	3	
	堤防現況調査	仙台河川国道事務所 (名取川出張所)	平成28年3月8日	1	
計				9	
秋田	防災セミナー	全国防災協会	平成28年2月2日	1	
	防災エキスパート意見交換会	秋田河川国道事務所	平成28年2月23日	19	
	地域防災フォーラム	岩手大学	平成28年3月8日	1	
	雄物川上流維持管理計画検討会	湯沢河川国道事務所	平成28年3月18日	4	
計				25	
山形	防災セミナー	全国防災協会	平成28年2月2日	1	
	PDCA連絡調整会議	酒田河川国道事務所	平成28年2月15日	1	
	防災エキスパート意見交換会	酒田河川国道事務所	平成28年2月24日	12	
計				14	
平常時活動 合 計 延べ				79	人・日



【秋田】雄物川上流維持管理計画検討会



【山形】PDCA連絡調整会議

防災エキスパート活動に係る連絡体制

この度、事務局の担当者が変わりましたのでご紹介します。

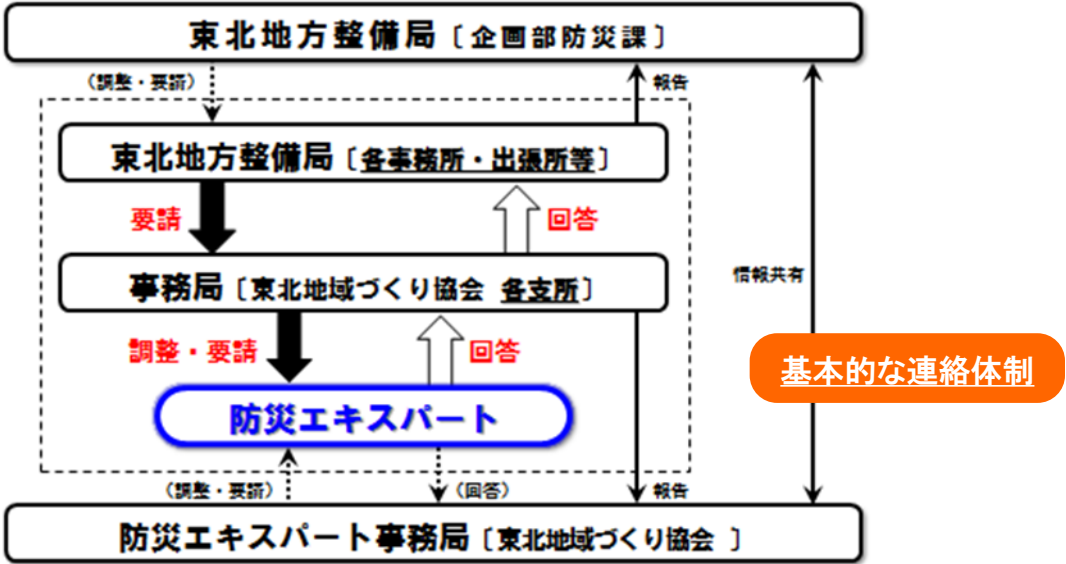
また、以前も掲載しましたが、防災エキスパート連絡体制について改めてご確認をお願いいたします。活動を行っていただくにあたり、基本的には事務局である各支所から要請し、活動後の報告も各支所へ提出いただくこととなります。

なお、活動にあたっては、可能な範囲で構いませんので、活動状況写真の記録並びにデータの提出をお願いいたします。

事務局拠点	担 当 者	住所／電話・FAX番号
本 所	西 條 一 彦（技術企画部長）	〒980-0871 宮城県仙台市青葉区八幡一丁目4-16 TEL:022-268-4611 FAX:022-227-6344
青森支所	高橋 武美（支所長）	〒030-0822 青森県青森市中央四丁目12-6 TEL:017-734-7754 FAX:017-734-7755
岩手支所	小山 幸男（支所長） 加藤 武男（次 長）	〒020-0114 岩手県盛岡市高松二丁目14-28 TEL:019-662-7010 FAX:019-662-7011
仙台支所	高橋 重道（支所長）	〒982-0003 宮城県仙台市太白区郡山五丁目14-13 TEL:022-247-0577 FAX:022-247-0680
秋田支所	津谷 昌彦（支所長）	〒010-0951 秋田県秋田市山王四丁目4-31 TEL:018-823-3148 FAX:018-823-3150
山形支所	山科 勝嗣（支所長）	〒990-2339 山形県山形市成沢西四丁目2-3 TEL:023-688-8044 FAX:023-688-8068
福島支所	三浦 毅 （支所長）	〒960-8153 福島県福島市黒岩字八郎内5-2 TEL:024-545-4371 FAX:024-545-4329

※ 本所事務担当〔技術企画部 主任 中村裕子、技術員 鈴木香澄〕

防災エキスパート連絡体制



「平成27年度 防災エキスパート意見交換会」

防災エキスパートの活動について、日頃からの連携強化を図る事を目的に意見交換会が行われました。

青森

開催月日：平成28年2月5日（金）

会 場：青森河川国道事務所

出 席 者：防災エキスパート 17名

主な内容：(1)情報提供

- ①「避難を促す緊急行動」の取り組み
- ②H28馬淵川・高瀬川総合水防演習
- ③災害対策法一部改正の概要
- ④青森県道路メンテナンス会議
- (2)防災エキスパートの活動と今後の活用について
- (3)意見交換会：災害対応を振り返って



秋田

開催月日：平成28年2月23日（火）

会 場：秋田河川国道事務所

出 席 者：整備局側 17名

防災エキスパート 20名

主な内容：(1)情報提供

- ①子吉川タイムライン及び水防災意識社会再構築ビジョンについて
- ②道路防災対応についての最近の動き
- (2)H27年度 防災エキスパートの活動と今後の活用について
- (3)意見交換会：災害時及び平常時の防災体制等についての課題、要望、助言等について
～災害時の支援体制(特に出張所支援)について～

山形

開催月日：平成28年2月24日（水）

会 場：酒田河川国道事務所

出 席 者：整備局側 13名

防災エキスパート 13名

主な内容：(1)事務所事業概要説明

- (2)最近の河川整備の動向
- (3)H27年度 防災エキスパートの活動と今後の活用について
- (4)意見交換会：防災体制、支援体制等に関する課題、要望について



編集 後記

平成28年4月14日に発生しました、熊本県を震源とする地震によりお亡くなりになられた方々
そのご遺族の皆様に対し謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様にご心よりお見
舞い申し上げます。

東日本大震災から5年、防災エキスパートの皆さまには、平常時の活動や訓練等の防災支援
活動にご協力いただき感謝しております。引き続き、皆さまのご支援ご指導を賜りますようお願い
いたします。

防災エキスパート事務局

(東北地域づくり協会 技術企画部 事務局)

TEL : 022-268-4611 / FAX : 022-227-6344

E-mail : gijyutsukikaku@kyokai.or.jp